

山形市教育研究所 情報教育推進に係る調査研究
市内小・中学生の情報活用能力の実態に関する調査

情報教育推進調査研究員

片桐 忠彦（第五小学校教諭） 三好 義宏（南小学校教諭）
伊藤 元（出羽小学校教諭） 齋藤 隆史（東沢小学校教諭）
高橋 章（桜田小学校教諭） 鎌田 史顯（第一中学校教諭）
原田 和子（第六中学校教諭） 草 苾 彰弘（第八中学校教諭）
鈴木 章人（蔵王第一中学校教諭）

情報教育推進調査研究事務局

菅野 徳明（総合学習センター指導主事）

1 情報活用能力の実態に関する調査について

(1) 調査目的

本市において、今後情報教育を推進する際の一課題として、本市児童・生徒の情報活用能力の実態を明らかにすることが挙げられる。第一に、児童・生徒の「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の三要素から構成される「情報活用能力」のバランスのとれた育成。第二には、児童・生徒が家庭で使用している機器及びネットワーク環境、ならびにこれらの使用に関する約束事の実態である。

児童・生徒が日常生活においてコンピュータやインターネットなどを効果的に良心的に活用するためには、児童・生徒の実態を踏まえた各校の情報教育の指針を示し、それぞれの情報教育年間計画を見直し整備することが不可欠である。

そこで、児童生徒のリテラシーおよび情報モラル・家庭での情報機器利用等に関する調査研究を行い、本市情報教育の推進・充実に資することを目的として調査研究を行った。

(2) 調査期間

平成14年11月11日(月)～11月22日(金)

(3) 調査方法

総合学習センターサーバ アンケート Web ページへのオンライン入力による回答（図1参照）

(4) 調査対象

市立小・中学校抽出児童・生徒
小学校（各校3～6年生 男女各5名抽出）
中学校（各校1,2年生 男女各10名抽出）

(5) 調査回答数

校種	学年	男子	女子	計
小学校	3年生	179	178	357
	4年生	176	175	351
	5年生	173	173	346
	6年生	180	176	356
	合計	708	702	1,410

校種	学年	男子	女子	計
中学校	1年生	142	138	280
	2年生	151	160	311
	合計	293	298	591

(6) 調査内容

市内小学生の情報活用能力の実態に関する内容

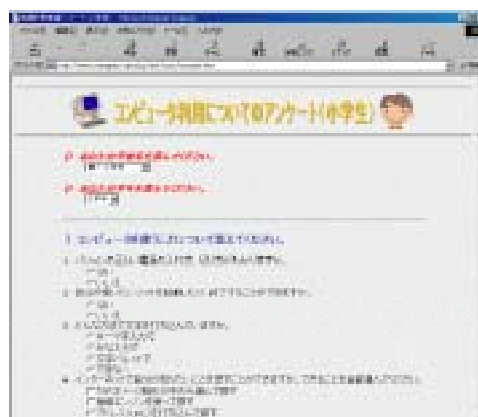
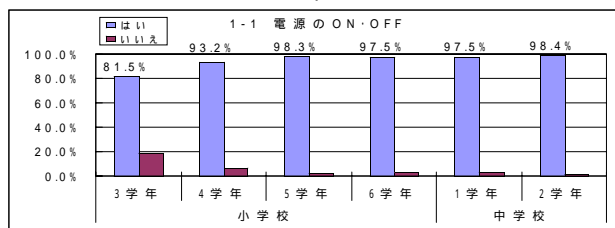


図1 アンケートページ（小学校）

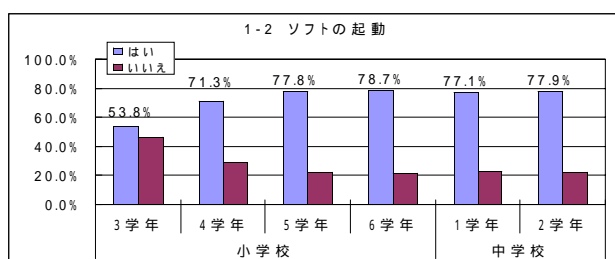
2 調査項目と結果

コンピュータを使うことについて

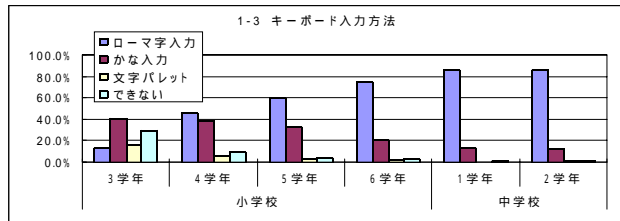
1 正しい電源の入れ方、切り方がわかりますか。



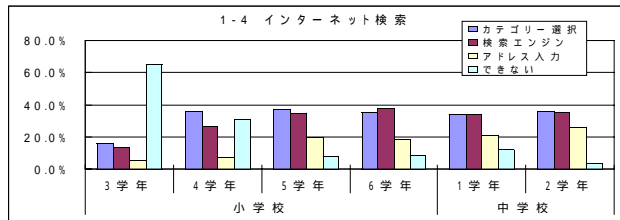
2 使いたいソフトの起動、終了ができますか。



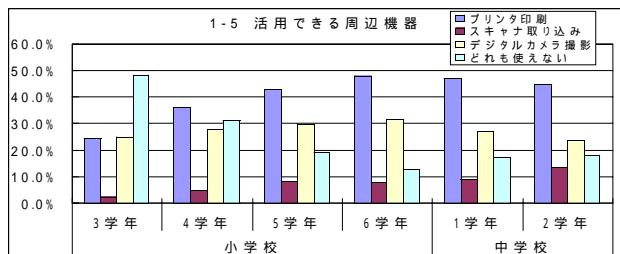
3 どんな方法で文字を打ち込んでいますか。



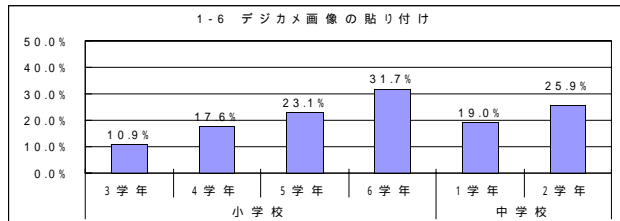
4 インターネットで知りたいことを探すことができますか。(複数回答)



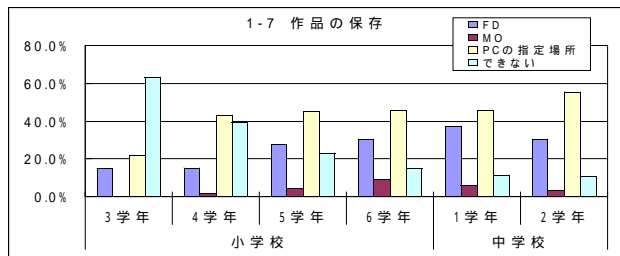
5 どんな周辺機器を使うことができますか。(複数回答)



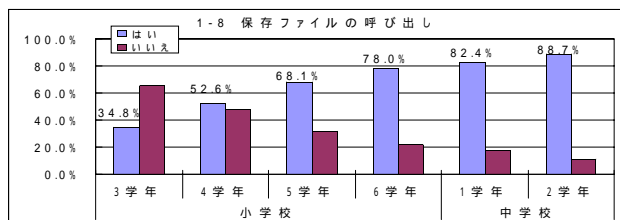
6 デジタルカメラで撮った写真を、自分の作品などに取り込むことができますか。



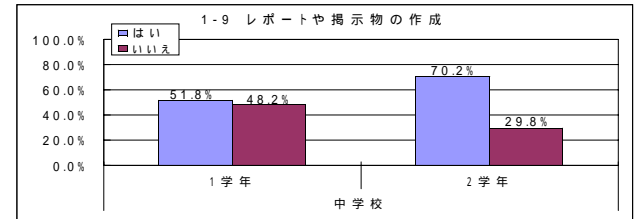
7 自分の作品を保存する(何かに記録する)ことができますか。(複数回答)



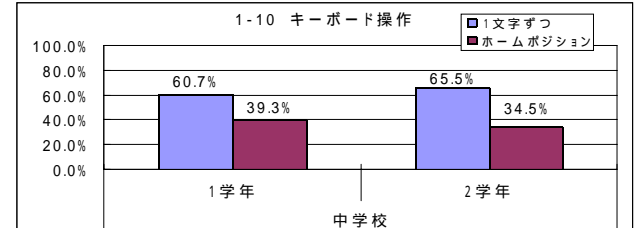
8 保存したものを呼び出すことができますか。



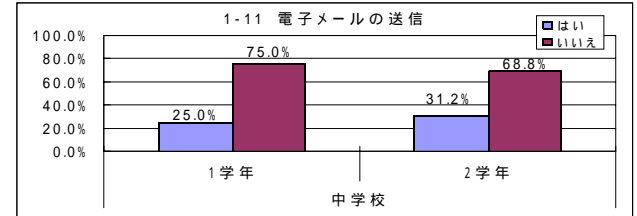
9 パソコンを使って、レポートや掲示物をつくることができますか。(中学校のみ)



10 文字を打ち込むときに、どのようにしていますか。(中学校のみ)

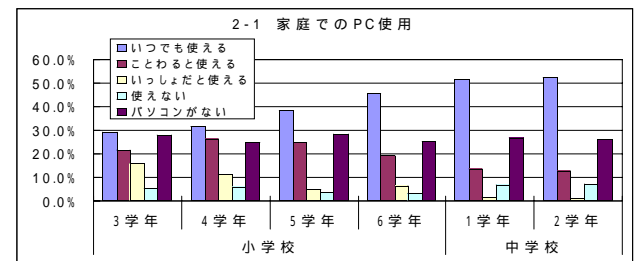


11 電子メールを送ることができますか。(中学校のみ)

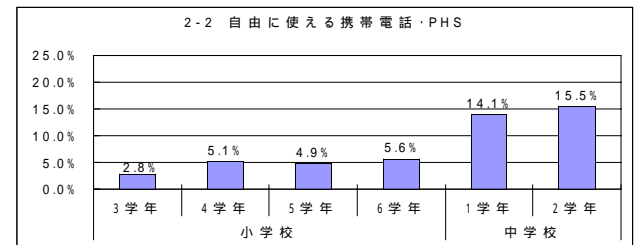


家庭でのことについて

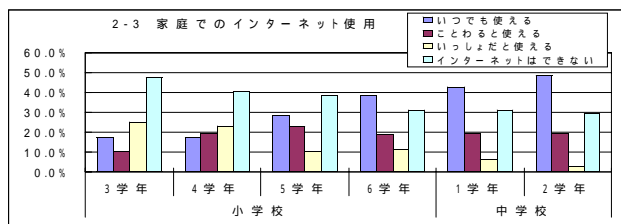
1 家庭でパソコンが使用できますか。



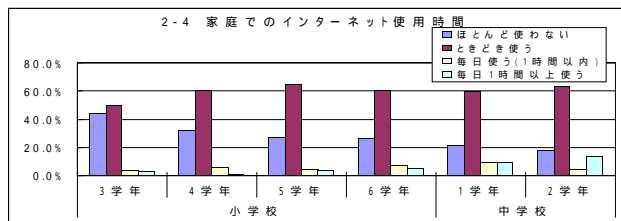
2 自由に使える携帯電話やPHSをもっていますか。



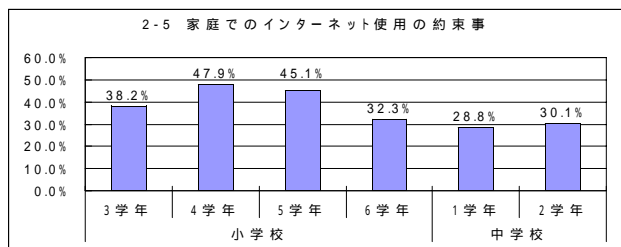
3 家庭でインターネットが使用できますか。



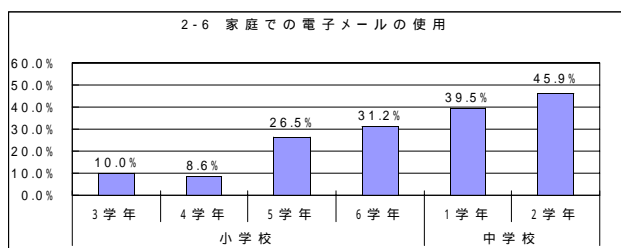
4 家庭でインターネットをどのくらい使っていますか。



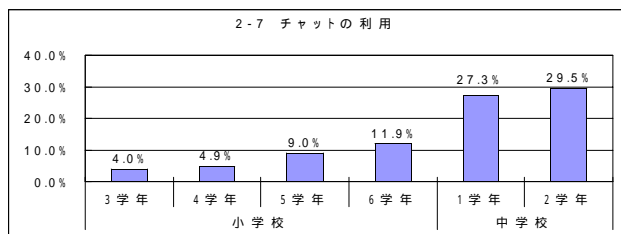
5 家庭でインターネットをするときに、約束事が決まっていますか。



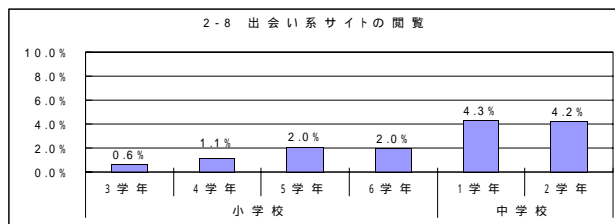
6 家庭でパソコンの電子メールを使ったことがありますか。



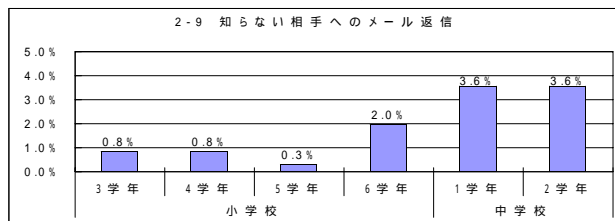
7 インターネットで『チャット』をしたことがありますか。



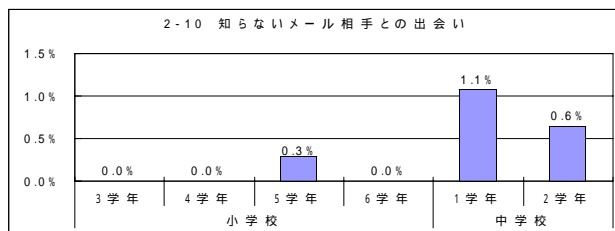
8 インターネットで『出会い系サイト』を見たことがありますか。



9 知らない人からメールをもらって、その人に返事を出したことがありますか。

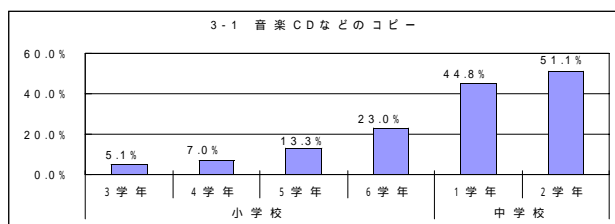


10 知らない人からメールをもらって、実際に会いに行ったことがありますか。

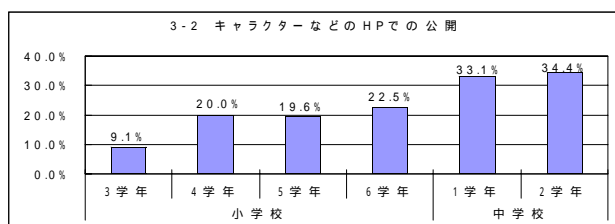


情報を扱う際の約束事について

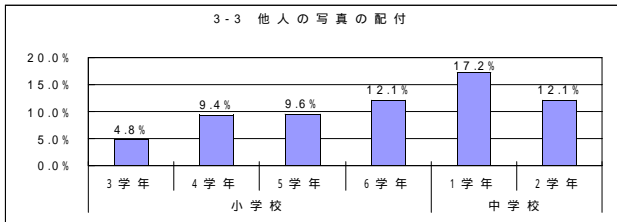
1 あなたは、これまで友人や知人から音楽CDを借りて自分用に録音した経験がありますか。



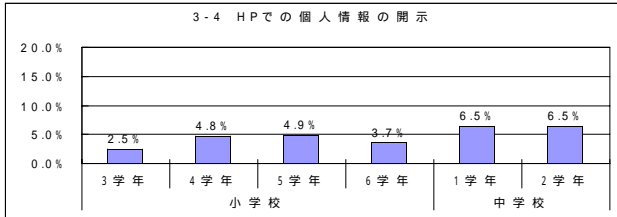
2 好きなキャラクターや歌詞を自分のホームページに貼り付けて公開することは良いことでしょうか。



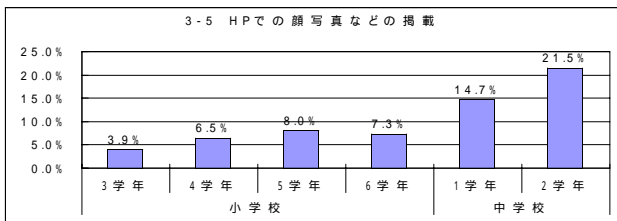
3 あなたはこれまでに、自分以外の人々が写っている写真を友達に配ったことがありますか。



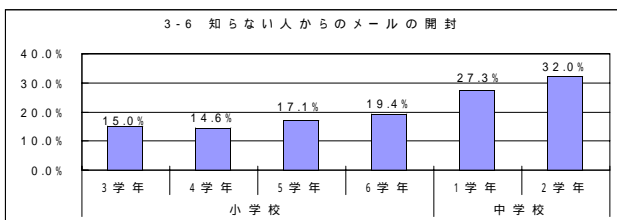
4 電子掲示板や、アンケートのホームページに自分の本名、電話番号など（個人情報）を書き込んだことがありますか。



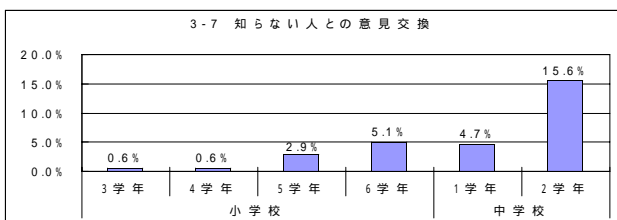
5 有名になりたいからと自分のホームページに住所や顔写真を載せようと思います。これはやっていることでしょうか。



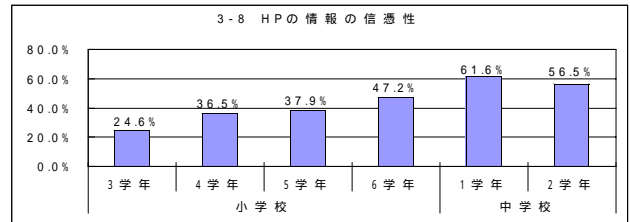
6 メールボックスに誰から来たのかわからないメールが届いていました。あなたならどうしますか。



7 電子掲示板やメールで、全く知らない人や面識のない人（顔を知らない人）と意見交換をしたことがありますか。

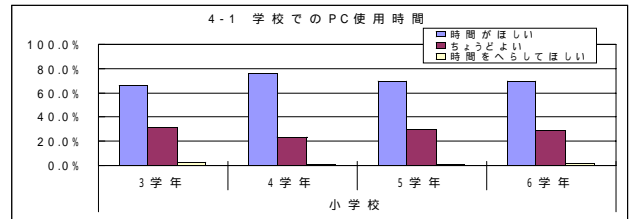


8 調べ学習中、あるホームページが見つかりました。あなたはその情報をすぐに活用しますか。

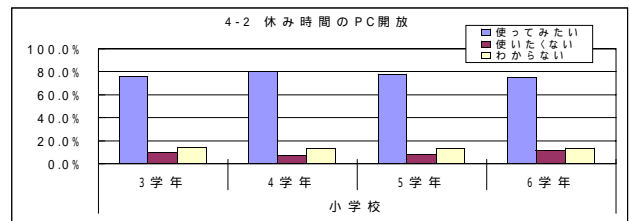


みんなの願いについて（小学校のみ）

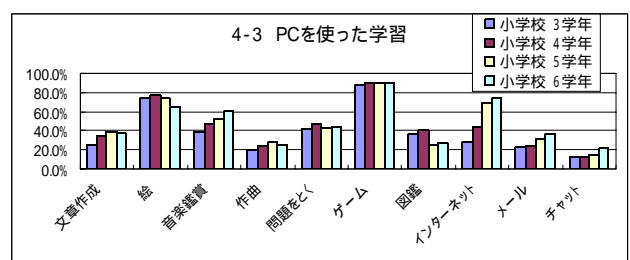
1 学校でコンピュータを使って学習していますね。クラスでのその時間をどうしてほしいですか。



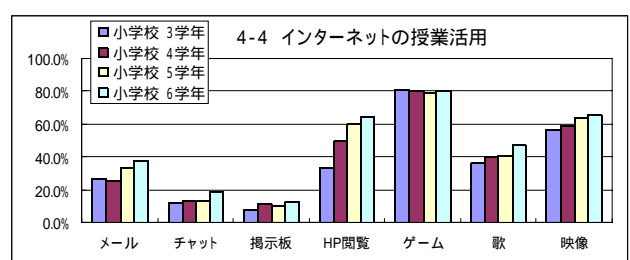
2 休み時間にコンピュータが自由に使える学校があります。あなたは休み時間に使ってみたいですか。



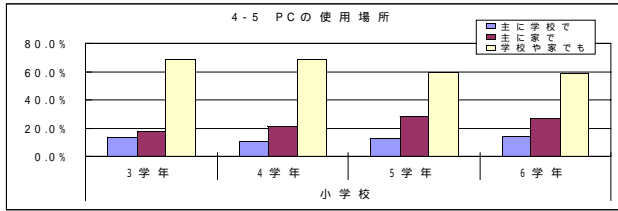
3 コンピュータではいろいろなことができます。あなたが、コンピュータでしてみたいことを選んでください。（複数回答）



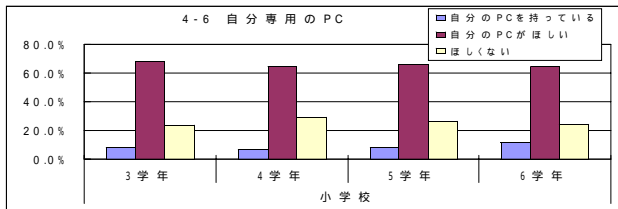
4 学習でインターネットを使って学習することができますね。あなたが、コンピュータでしてみたいことを選んでください。（複数回答）



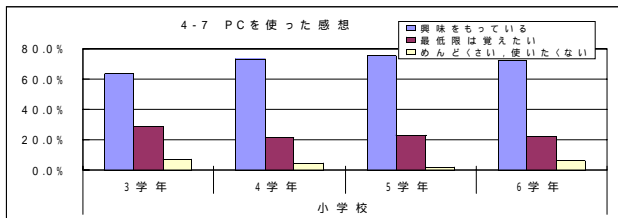
5 あなたがコンピュータを使うとしたらどこで使いたいですか。次の中から選んでください。



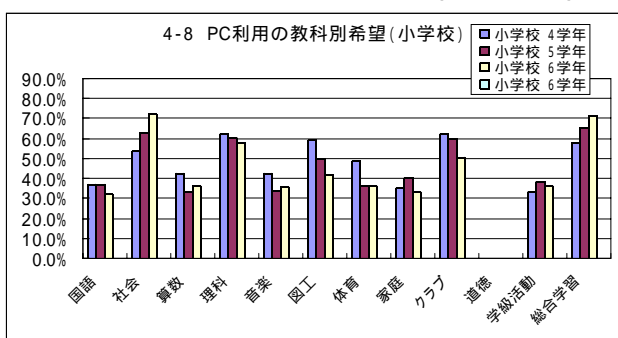
6 自分専用のコンピュータがほしいと思いますか。



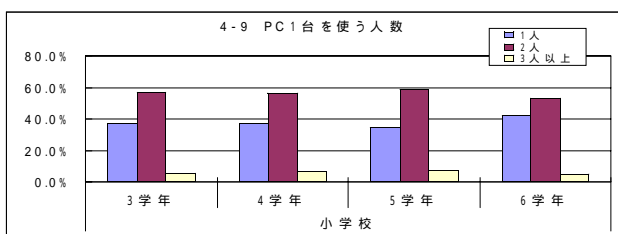
7 コンピュータを学校で使ってみて、どんな感じがしますか。一番近いものを選んでください。



8 学校の学習でコンピュータをつかうとすれば、どんな教科で使ってみたいですか。(複数回答)

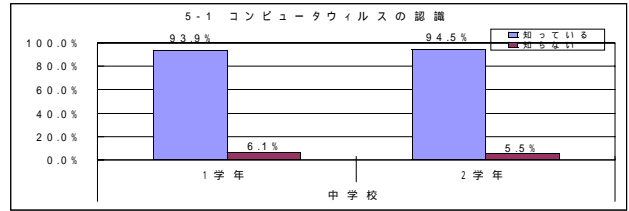


9 あなたが、学習で1台のコンピュータをつかうとすれば、何人で使えるといいですか。

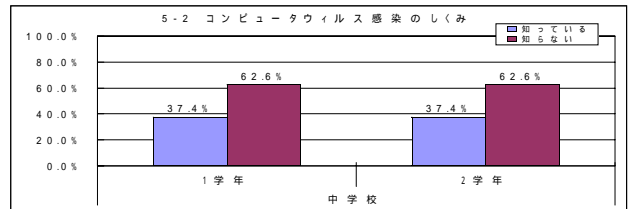


知っていること、経験したことなどについて (中学校のみ)

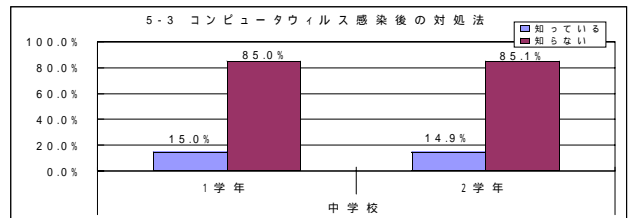
1 コンピュータ・ウイルスという言葉を知っていますか。



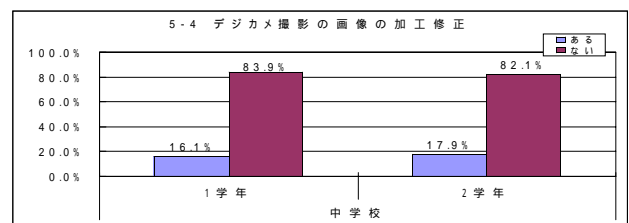
2 コンピュータ・ウイルスがどのようにして感染するのかを知っていますか。



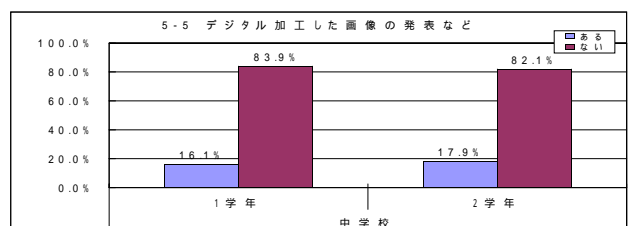
3 もし、コンピュータ・ウイルスに感染したら、どのように対処したらよいか知っていますか。



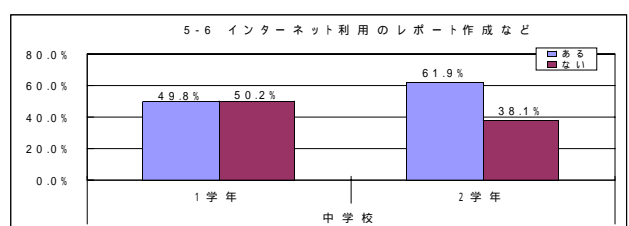
4 デジカメで撮影した画像を加工したり、修正したことがありますか。



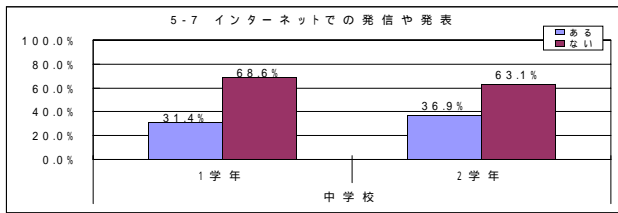
5 デジカメで撮影した画像を加工・修正し、発信したり発表したことがありますか。



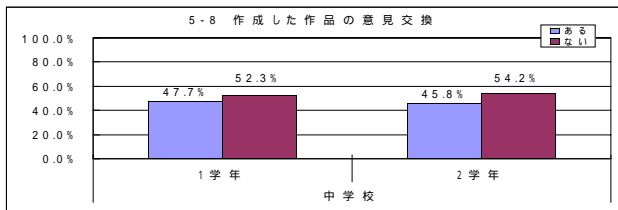
6 インターネットから得た情報を使って、レポートを作成したり、作品にまとめたことがありますか。



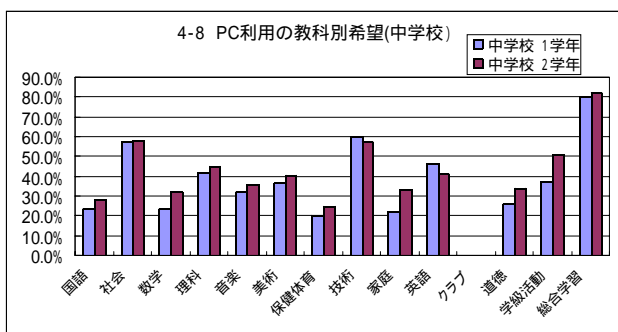
7 インターネットから得た情報を使ったレポートや作品を、他の人に発信したり、発表したことがありますか。



8 授業などでコンピュータを使って作成した作品について、他の人と意見交換したり、感想を発表し合ったことがありますか。



9 あなたが、学校の学習でコンピュータをつかうとすれば、どんな教科で使ってみたいですか。いくつでも選んでください。(複数回答)



3 考察および今後の課題

今回の調査によって、大きく3つの実態が浮き彫りになったと思われる。そこから生じてきた問題点や今後の課題についてまとめてみたい。

まず、第1に「児童・生徒はもっとコンピュータを使いたいという願いをもっている」ということである。アンケートの数値から積極的イメージを持つ子どもが多数を占めていることがわかる。また、あらゆる教科において、コンピュータを活用した学習を期待している。

こうした実態にあわせて、各教科において幅広く活用されるような学習内容や活動を開発していくことが必要となる。さらに、特別活動での活用や授業時間外のコンピュータ室の開放など、利用機会を増やしていく学校の体制面からの工夫も望まれるところである。

第2に「ハード普及の勢いに伴って高まったスキル面と、それに追いつかないモラル面」である。

この調査の結果から見る限り、家庭での普及率は7割を超え、全国の普及率を大きく上回っている。社会的な流れの一環であるともとれるが、学校での学習で楽しさを味わった子どもたちが持った「家でも使いたい」という願いを持ち、家庭がそれに応え始めている表れともとれるのではないだろうか。

しかし、それに伴って考慮されるべき家庭での約束事が不十分なまま、インターネットの世界に飛び出してしまっている実態も見えてきた。特にモラル面での意識の低さは、児童・生徒自身の知識不足、意識の低さが要因となっていると考えられ、さらにその原因は学校における指導が、スキル面に比べて遅れているのと同様に実態によるものとも考えられる。コンピュータの活用方法が広がれば広がるほど、今後、ますます重視して指導していかなければならないことは明らかである。

第3に、「個人差へ対応と、デバインドを今以上に広げないための手立てが必要」ということである。

リテラシー定着に関する調査では、学校ごとの指導計画に基づいた指導の積み上げがうかがえる。しかし、その値を他の要因と関連づけて分析した場合、家庭環境による格差があることは現実である。

この差は早急に解決できる問題ではないので、今後も個人差を考慮した学習活動を工夫していくことが求められる。さらに、この差を少しでも埋めていくためには、年間指導計画の整備とそれに基づいた系統性のある学習を、学校・学年・学級間の格差が生じないように確実に実行してことが重要である。さらに必要によっては、他の学習と同様、個別の指導も考えていくべきであろう。

今回、山形市独自のものとしては初めて実施した調査であったが、小・中学校ならびにその家庭の実態から、これまでの成果と課題が明らかになった。これからの情報教育の方向性を具体化するためには大いに意義があったと考える。今後も追跡調査し、ここに表れた課題が解決の方向に進んでいくことを確かめながら、今後の発展につながる新たな提言をしていくことを視野に入れていきたい。

* なお、本調査研究の報告全文については、下記 URL 山形市総合学習センターページ内教育研究所にて公開しておりますので、ご覧ください。

URL <http://www.yamagata-ygt.ed.jp>